

## 堺市博物館研究報告 第35号

編集・発行 堺市博物館

発行日 平成28年3月31日

印刷 株式会社アイティ印刷

堺市行政資料番号 1-L4-15-0345

## 事業報告（平成26年度）

### <展 示>

- ・特別展
  - 「日本発掘—発掘された日本列島2014—」 (2)
  - 「日本のわざと美展  
—重要無形文化財とそれを支える人々—」 (3)
- ・企画展
  - 「和泉国 法道寺の至宝  
—鉢峯山のほとけたち—」 (4)
  - 「貫名菘翁の優品」 (5)
  - 「ふしぎの国へようこそ  
—西洋古地図のなかの日本—」 (6)
  - 「タイの古陶磁Ⅲ  
—アユタヤ王朝とミャンマーの優品—」 (7)
- ・スポット展示
  - 「3月11日をむかえて  
—堺の地震をふりかえる—」 (8)
  - 「古文書をよみとく—文字とカタチから—」 (8)
  - 「与謝野晶子と小林天眠の長き交流」 (8)
  - 「発見!100年前の堺の銀行  
—兒山銀行記録—」 (8)
  - 「クイズ!?むかしの道具」 (8)
- <資料>
  - ・新収蔵資料 (9)
  - ・保存修理 (9)
  - ・館外貸出 (10)
  - ・特別利用 (10)

### <普及>

- ・体験学習会 (11)
  - ・博物館コンサート2014 (11)
  - ・2014ミュージアム・パス&スタンプ・ラリー (11)
  - ・博物館実習 (11)
  - ・博物館学芸員インターンシップ実習 (12)
  - ・「日本と世界が会うまち・堺 2014」プロジェクト (12)
  - ・新成人招待プログラム (12)
  - ・第32回古文書講習会 (12)
  - ・職場体験学習 (12)
  - ・連続講座「百舌鳥古墳群研究の最前線」 (12)
  - ・連続講座「まわりからみた百舌鳥古墳群」 (12)
- <無形文化遺産の普及促進事業>
- ・無形文化遺産理解セミナー
    - 「人形浄瑠璃文楽の魅力  
～より深く理解し、楽しむために～」 (13)
    - 「世界のなかでの和食」 (13)
    - 「ユネスコ無形文化遺産条約とIRCIの歩み」 (14)
    - 「南インド社会と音楽」 (14)
  - ・コーナー展示
    - 「南インドの音楽と楽器」 (15)
  - ・ワークショップ
    - 「南インド古典舞踊—バラタナティヤム」 (15)
- 職員 (16)
  - 博物館協議会委員 (16)
  - 平成26年度入館者数 (16)
  - 利用案内 (17)

# 展 示

## 特別展 「日本発掘—発掘された日本列島2014—」

平成26年9月27日（土）～11月3日（月・祝）

主催：文化庁・堺市博物館

日本国内では、毎年約八千件にのぼる発掘調査が行われ、数多くの成果が日々蓄積されています。文化庁では、平成7年度から「発掘された日本列島」展を開催しています。平成26年度は、二十回目を迎える記念事業として「日本発掘」展と称し、日本を代表する遺跡の発掘調査成果と、これまで列島展に出品され、その後、重要文化財等に指定された遺物を展示することになりました。

今回の展示は、遺跡から日本の歴史を語るもので、展示面積・展示遺跡件数・展示資料数とも過去最多、「発掘された日本列島」展二十年間の集大成と位置付けています。

また、これと共に、近年注目された旧石器時代から近世までの発掘調査成果速報展である「第2部新発見考古速報」や東日本大震災の復興事業に伴う発掘調査成果である「第3部復興のための文化力」を紹介・展示しました。当館では総数約千百点におよぶ出土品すべてを展示することができました。34日の開催期間内に12,498人の方々に観覧していただきました。今回の展示を通して、出土品から様々な発掘調査の成果を身近に感じ、我が国の歴史や文化のすばらしさと多様性や発掘調査の意義と埋蔵文化財の保護へのご理解を深めていただけたと思います。

なお、この展示は、東北歴史博物館（5月31日～7月9日）を皮切りに東京都江戸東京博物館（7月26日～9月15日）、堺市博物館（9月27日～11月3日）、長野市博物館（11月15日～12月21日）、九州国立博物館（平成27年1月1日～3月1日）を巡回しました。（續）

### 【展示品が出土した遺跡名】

#### ◆「第1部日本発掘」

【重要文化財・当館のみ】大風呂南一号墓（京都府与謝野町）・史跡西求女塚古墳（兵庫県神戸市）・特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡（福井県福井市）

【各館共通】旧石器時代（史跡白滝遺跡群）、縄文時代（東名遺跡・特別史跡三内丸山遺跡・野首遺跡）、弥生時代（特別史跡吉野ヶ里遺跡・泉坂下遺跡・小野天神前遺跡・海後遺跡・黒島遺跡・銅鐸出土遺跡）、古墳時代（鴨都波1号墳・応神天皇陵古墳・史跡今

城塚古墳・特別史跡キトラ古墳・特別史跡高松塚古墳）、古代（特別史跡山田寺跡・石神遺跡・史跡川原寺跡・川原寺裏山遺跡・特別史跡藤原宮跡）、中世（博多遺跡群・瀬戸古窯群）

#### ◆「第2部新発見考古速報」

旧石器時代（地蔵田遺跡）、縄文時代（長竹遺跡）、弥生時代（東町田遺跡・荒尾南遺跡・上御殿遺跡）、古墳時代（史跡能美古墳群）、古代（平安京右京三条一坊六町）、中世（下馬周辺遺跡）、近世（鉄砲山古墳忍藩角場遺構・品川台場（第五）遺跡）

#### ◆「第3部復興のための文化力」

波怒棄館遺跡・堂の前貝塚・畠中遺跡・荒井広瀬遺跡・桜田IV遺跡・南狼沢A遺跡・新井田館遺跡

### 【関連行事】

#### ◆講演会

日時：9月28日（日）14時～

講師：林正憲氏（文化庁記念物課文化財調査官）

#### ◆展示品解説

日時：10月4日（土）、10月25日（土）14時～

#### ◆連続講座「平成版日本考古学の現状と課題」

①縄文時代（10月5日）立命館大学文学部教授 矢野健一氏

②弥生時代（10月12日）日本文化財科学会評議員 森岡秀人氏

③古墳時代（10月19日）国立歴史民俗博物館名誉教授 広瀬和雄氏

④古代（10月26日）京都府立大学文学部教授 菱田哲郎氏

⑤中世・近世（11月2日）奈良大学文学部教授 坂井秀弥氏

### 【地域展】大阪府立弥生文化博物館で開催

#### ◆秋季特別展「河内地寶」（9月17日～12月14日）

巡回館が独自に企画する地域展は、展示スペースの関係上大阪府立弥生文化博物館で開催しました。開催に際しましては（公財）大阪府文化財センター・大阪府立弥生文化博物館のご協力を得て、両館共通のチラシと招待券を作成しました。



特別展 「日本のわざと美」展 —重要無形文化財とそれを支える人々—

平成26年11月15日(土)～平成27年1月12日(月・祝)

前期：11月15日(土)～12月7日(日) / 後期：12月9日(火)～1月12日(月・祝)

主催：文化庁、大阪府教育委員会、堺市、堺市教育委員会

後援：NHK大阪放送局

特別協力／東京国立近代美術館

重要無形文化財保持者「人間国宝」170人と14の保持団体による193件の工芸作品(陶芸・染織・漆芸・金工・木竹工・人形・手漉和紙・截金・撥鏤)を展示し、その「わざ」と「美」をご覧いただきました。あわせて、それらの伝統工芸技術を支える道具や材料を製作・生産する選定保存技術も紹介し、日本の伝統工芸技術を継承することの重要性について実感できる展覧会となりました。(宇野)

【関連行事】

・ギャラリートーク

日時：11月15日(土) 14時～15時

講師：猪熊兼樹氏(文化庁文化財調査官)

参加人数：約50人

・記念講演会

「伝承と創造—鍋島更紗から木版摺更紗へ—」

日時：11月16日(日) 14時～15時30分

講師：鈴木滋人氏

(重要無形文化財「木版摺更紗」保持者)

参加人数：75人

・製作実演「浮世絵木版画技術」(選定保存技術)

日時：11月29日(土)・30日(日)

10時～12時、13時～16時

実演：浮世絵木版画彫摺技術保存協会

(選定保存技術「浮世絵木版画技術」保存団体)

参加人数：約400人

・ワークショップ

「浮世絵の技で年賀状をつくってみよう」

日時：11月29日(土)・30日(日)

10時～12時(対象：中学生以上)

13時～16時(対象：小学5年生以上)

※小学生は保護者同伴)

講師：浮世絵木版画彫摺技術保存協会

(選定保存技術「浮世絵木版画技術」保存団体)

参加人数：40人

・製作実演「伊勢型紙」(重要無形文化財)

日時：12月6日(土)・7日(日)

10時～12時、13時～16時

実演：伊勢型紙技術保存会

(重要無形文化財「伊勢型紙」保持団体)

参加人数：約300人

・ワークショップ

「伊勢型紙で年賀状をつくってみよう」

日時：12月6日(土)・7日(日)

10時～12時(対象：中学生以上)

13時～16時(対象：小学3年生以上)

※小学生は保護者同伴)

講師：伊勢型紙技術保存会

(重要無形文化財「伊勢型紙」保持団体)

参加人数：91人



特別展会場



製作実演「伊勢型紙」(重要無形文化財)

企画展 和泉国 法道寺の至宝 —鉢峯山のほとけたち—

平成26年5月17日(土)～6月15日(日)

堺市南区、上神谷地区にある鉢峯山法道寺は、真言宗の古刹です。古くは長福寺といい、鎌倉時代の食堂や南北朝時代の多宝塔（ともに重要文化財）など、多くの文化財を伝えています。

今回の展示は、重要文化財に指定される十六羅漢像が六カ年にわたる修理を終えたのを記念して企画したもので、全十六幅を一堂に会する貴重な機会となりました。

また法道寺ゆかりの文化財についてはこれまで堺市による調査が行われ、堺市博物館での展覧会（堺の仏像仏画〈昭和60年〉、和泉地方の仏像〈昭和63年〉、大阪の仏像〈平成3年〉、大阪の仏教絵画〈平成7年〉など）において紹介してまいりました。このたびの展覧会ではそうしたこれまでの成果を集約し、法道寺が所蔵する文化財のほぼ全容を紹介することができました。（堀川）

【関連行事】

◆展示品解説

日時：5月24日(土)・6月7日(土)  
14時～14時45分、企画展会場  
講師：当館学芸員

◆学芸講座（展示品解説含む）

日時：6月1日(日) 14時～15時30分  
会場：博物館ホール・企画展会場  
講師：当館学芸員

【出品リスト】

◎国重要文化財、□堺市指定有形文化財

※印は小谷城郷土館蔵。その他はすべて法道寺蔵。

- 1 薬師如来坐像 一躯 平安時代(12世紀)
- 2 薬師如来坐像 一躯 平安時代(12世紀)
- 3 薬師如来坐像 一躯 平安時代(12世紀)
- 4 阿弥陀如来立像 一躯 平安時代(12世紀)
- 5 二天立像 二躯 平安時代(12世紀)
- 6 十二神将立像 十二躯 鎌倉時代(13世紀)
- 7 大日如来坐像 一躯 平安時代(12世紀)
- 8 阿弥陀如来坐像 一躯 平安時代(12世紀)
- 9 阿弥陀如来坐像 一躯 平安時代(12世紀)
- 10 法道仙人倚像 一躯 江戸時代(17～18世紀)
- 11 □金剛力士像 昨形胎内納入墨書木札 一点  
鎌倉時代(弘安6年/1283)

- 12 ◎十六羅漢像 十六幅 南北朝時代(14世紀)
- 13 □阿弥陀三尊図 一幅 高麗時代(13～14世紀)
- 14 仏涅槃図 一幅 室町時代(15世紀)
- 15 不動明王二童子像 一幅 室町時代(15世紀)
- 16 興教大師像 一幅 室町時代(15世紀)
- 17 阿弥陀如来摺仏 三幅のうち一幅 江戸時代  
(18世紀) / 版木は鎌倉時代(13～14世紀)
- 18 十二天像のうち風天、羅刹天 十二幅のうち  
二幅 室町時代(15世紀)
- 19 扁額 一点 鎌倉時代(乾元2年/1303)
- 20 鉢峯山長福寺縁起 一卷 鎌倉～江戸時代  
(14～19世紀) / 成立は徳治2年(1307)頃
- 21 鉢峯山惣絵図 一鋪 江戸時代(17世紀)
- 22 般若心経 一卷 平安時代(12世紀)
- 23 雑阿含経 一卷  
平安～鎌倉時代(12～13世紀)
- 24 八葉単弁蓮華紋軒丸瓦 一点  
平安時代(12世紀)
- 25 八葉単弁蓮華紋軒丸瓦 一点※  
平安時代(12世紀)
- 26 巴紋軒丸瓦 一点※ 鎌倉時代(13～14世紀)
- 27 鳥衾 一点 鎌倉時代(13～14世紀)
- 28 巴紋軒丸瓦 一点※ 室町時代(15～16世紀)
- 29 巴紋軒丸瓦 一点※ 室町時代(15～16世紀)
- 30 巴紋軒丸瓦 一点 室町時代(15～16世紀)
- 31 巴紋軒丸瓦 一点 室町時代(15～16世紀)
- 32 均整唐草紋軒平瓦 一点※  
室町時代(15～16世紀)
- 33 均整唐草紋軒平瓦 一点  
室町時代(15～16世紀)
- 34 水波紋軒平瓦 一点 室町時代(15～16世紀)
- 35 多宝塔丸瓦 二点  
南北朝時代(正平23年/1368)



企画展 「貫名菘翁の優品」

平成26年6月21日（土）～9月15日（月・祝）

貫名菘翁（海屋：1778～1863）は阿波徳島出身で、京都で儒学を講じながら、書や絵にも優れた作品を残しました。当館で所蔵する書家・山下是臣氏収集による貫名菘翁作品群は、優れたコレクションとして知られています。本展では、この山下コレクションから、行書の模範ともいわれている十字二句「天地無私」など、菘翁の書画の優品を展示し、菘翁の力強い書風が創り出す墨の美の世界を紹介しました。（倉橋）

【関連行事】

◆学芸講座（展示品解説含む）

演題：「貫名菘翁の魅力」

日時：9月7日（日） 14時～15時30分

場所：博物館ホール・企画展会場

講師：当館学芸員

◆展示品解説

日時：6月21日（土）・8月16日（土）・9月13日（土）

14時～14時30分、企画展会場

講師：当館学芸員

【出品リスト】

◆海屋書風の作品

- 行書 陪南洞公七言絶句三首詠草  
文政8年（1825） 48歳 一幅
- 行書 観黄薇筱井氏藏平安書  
天保元年（1830） 53歳 一幅
- 行書 江淹陶徵君潜田居詩  
天保8年（1837） 60歳 一幅
- 行書 松鶴二句 天保12年（1841） 64歳 对聯
- 行書 前出師表 弘化元年（1844） 67歳 一幅
- 行書 帰去来辞 弘化2年（1845） 68歳 一幅

◆菘翁書風の作品

- 草書 前赤壁賦屏風  
嘉永4年（1851） 74歳 六曲一双
- 草書 飲中八仙歌 安政元年（1854） 77歳 一幅
- 行書 放鶴詩七言律詩  
安政2年（1855） 78歳 一幅
- 行書 十字二句「天地無私」  
文久元年（1861） 84歳 对幅
- 行書 論声律七言律詩  
文久2年（1862） 85歳 一幅

◆中風様書風

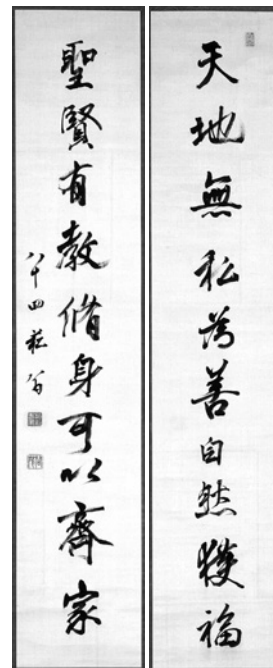
- 草書 一行書「一諾黄金信」  
文久2年（1862） 85歳 一幅
- 草書 柳々州之詩 文久2年（1862） 85歳 一幅
- 草書 題富士升龍図七言絶句  
文久3年（1863） 86歳 一幅

◆絵画作品

- 松林煎茗図 行書五言絶句賛  
天保9年（1838） 61歳 一幅
- 天仙図 行書七言絶句賛  
天保12年（1841） 64歳 一幅
- 法費晴湖山水図 行書五言絶句賛  
嘉永2年（1849） 72歳 一幅
- 雲峯古刹図 行書七言絶句賛  
嘉永4年（1851） 74歳 一幅
- 歳寒三友図 安政4年（1857） 80歳 一幅
- 瀑布図 行書七言二句賛  
文久2年（1862） 85歳 一幅

◆臨模本

- 臨 集字聖教序 70歳代 五帖  
等 計28件・35点



行書 十字二句「天地無私」  
文久元年（1861） 84歳 对幅  
（漢文釈文）天地無私、為善、自然獲福  
聖賢有教、脩身、可以齊家

企画展 「ふしぎの国へようこそ —西洋古地図のなかの日本—」

平成27年1月24日（土）～3月15日（日）

ヨーロッパの人々にとって、東の彼方にある日本はふしぎの国でした。

ベニス生まれで13・14世紀に活躍した冒険家マルコポーロは、黄金の国ジパングとして日本をヨーロッパに紹介し、その富のすばらしさは、多くの人々の心を捉えました。当館は東西交流の結果誕生した多くの西洋地図を所蔵しています。その中でもヨーロッパ人が堺について表現した作品を中心に展示し、西洋が東洋をそして日本・堺をどのように見ていたかを考えました。

はじめて堺が本格的に登場した地図として著名なテイセラ／オルテリウスの1595年製の「日本図」について、博物館ボランティアの方々のご協力を得て、地名の考証をしました。

また、1669年にオランダで出版されたモンタヌス日本誌について、挿絵作家がヨハネス・フィングボーンズであること、東洋情報はニューホフからもたらされたものに拠っていることを初めて紹介しました。

展示にあたっては、堺市立日置荘中学校の職場体験の7人の生徒さんのご協力を得ました。（矢内）

【関連行事】

◆展示品解説

日時：1月25日（日）

14時～14時30分、企画展会場

講師：当館学芸員

◆学芸講座（展示品解説含む）

日時：3月1日（日） 14時～15時30分

場所：博物館ホール・企画展会場

講師：当館学芸員

【展示作品】

『モンタヌス日本誌』		1冊
モンタヌス	内裏図	1枚
モンタヌス	方広寺大仏図	1枚
モンタヌス	大坂図	1枚
モンタヌス	大坂城図	1枚
モンタヌス	長崎図	1枚
シャトラン	都・堺・長崎図	1枚
ボルドーネ	日本図	1枚
ミュンスター	新世界図	1枚
ルドヴィコ・ジョルジオ	中国図	1枚
テイセラ／オルテリウス	日本図	1枚
ベラン	日本図	1枚
レランド	日本六十余州之図	1枚
バタヴィア	城郭都市及び市街図	1枚
パーカー	アムステルダム 都市図	1枚
プランシウス	球形世界図	1枚
リンスホーテン	ゴア都市図	1枚
異国人物図		1巻
撰津国名所港津図屏風		1双
以上当館蔵		
日本図・世界図屏風		1双 個人蔵



『モンタヌス日本誌』より「堺郊外の大殿堂図」

## 企画展 タイの古陶磁Ⅲ —アユタヤ王朝とミャンマーの優品—

平成27年3月21日（土・祝）～4月19日（日）

協力：堺国際交流協会

個人が所蔵するタイ・ミャンマー製の陶磁器を基にタイの窯業史をたどる「タイの古陶磁」シリーズを平成24年度より毎年開催してきましたが、今年度で3回（最終回）を迎えました。

今回は、アユタヤ王朝（14世紀～18世紀）と隣国であるミャンマーの陶磁の優品を中心とした展示と共に周辺遺跡から出土した同様の陶磁等を集めて堺そして日本との交流を考えました。

15世紀以降、アユタヤ王朝は積極的に海外貿易を行ってきました。その物資は容器である壺に詰められ、エジプトやヨーロッパ方面やインドネシア・フィリピン、そして琉球を経由して日本に運ばれていました。なかでも、17世紀初頭から中頃にかけて朱印船貿易の中心地として繁栄した堺との関係は特に深く、町の跡（堺環濠都市遺跡）からはタイ製の陶磁が出土しています。16世紀後半頃に硫黄が貯蔵されたタイ・メナムノイ窯製四耳壺が2個出土しており、火縄銃に使用する黒色火薬の原材料を保管していたと考えられています。また、和歌山市城山遺跡から出土している円錐形鉛地金（インゴット）は、タイ・カンチャブリ県ソントー鉱山で精錬されたもので国内では他に高知県岡豊城や大分県大友府内町跡などから出土しています。16世紀後半頃に火縄銃の鉛製鉄砲玉を製造するためにポルトガルの宣教師を通じて輸入されたと考えられています。

同時期のミャンマー製陶磁も出土しています。国内では他に長崎県長崎市・平戸市、大分県大分市、福岡県福岡市から出土しているだけでポルトガル、オランダ商船により南蛮貿易に伴い持ち込まれたと考えられます。

京都市内では、17世紀中頃に「南蛮漆器」の塗料として使用されたと考えられる海外産漆（チチオール・ラッコール）が付着したタイ・メナムノイ窯製焼締四耳壺、ベトナム中部製焼締四耳壺が篋・刷毛と共に出土しており、当時輸入されていた品名が具体的にわかる例として貴重です。

今回の展示に併せて堺市堺区中之町東4丁の正法寺に伝来していた「釈尊降魔成道図」をほぼ原寸大（長さ約336cm・幅約103cm）の写真タペストリーとして製作・展示しました。この原資料は昭和20年の空襲で焼失しましたが、市史編纂時に撮影されたガラス乾板が残っていました。由緒書きによると寛文元年（1661）に

タイ在住の中村彦左衛門が堺在住の両親の菩提を弔うために、この図を日本への船便に託し、長崎経由で堺の正法寺子院に納められたとあります。タイではアユタヤ時代までさかのぼる仏画（Pharabot）は希少で、この図は学術的基準資料として評価されています。

最後に、貴重なコレクションを多数出品していただいた糸井健二氏に心より感謝申し上げます。

\*堺環濠都市遺跡（SKT1029）からベトナム中南部産施釉四耳壺（チャンパ四耳壺）が国内初めて出土していたことがわかり、合わせて展示しました。（續）

### 【主な展示品】

#### ◆個人所蔵品（25点）

無釉波状文四耳大壺・無釉花文押型四耳壺（タイ・シーサッチャナライ窯）  
褐釉四耳壺・褐釉広口壺（タイ・メナムノイ窯）



緑彩三魚文皿（ミャンマー）

緑釉鳥・女人像磚・緑彩花文皿・青磁鑄文皿・白釉輪花皿・白釉皿・紅釉鉢など（ミャンマー）

#### ◆堺市文化財課（10点）

黒釉四耳壺・焼締四耳壺など（タイ・メナムノイ窯）、黒釉壺・白釉盤など（ミャンマー）

#### ◆和歌山市教育委員会（2点）

円錐形鉛インゴット（タイ・ソントー鉱山）

#### ◆京都市考古資料館（6点）

焼締四耳壺（チチオール付着・メナムノイ窯）、焼締四耳壺（ラッコール付着・中部ベトナム）、木製篋・刷毛（チチオール・ラッコール付着）など

#### ◆釈尊降魔成道図（正法寺旧蔵・複製品）

### 【関連事業】

#### ◆学芸講座（展示品解説含む）

日時：4月12日（日）14時～15時30分

#### ◆展示品解説

日時：3月29日（日）14時～14時30分

#### 【図録】「タイの古陶磁」A4版・36頁

内容：①「タイの窯業史」向井互（金沢大学国際文化資源学術研究センター客員研究員）

②「堺環濠都市遺跡から出土したタイ陶磁について」續 伸一郎（当館）



## スポット展示

### 「3月11日をむかえて 一堺の地震をふりかえる」

平成26年3月11日(火)～6月1日(日)

日本列島は有史以来、幾度となく地震と津波に襲われていますが、私たちが暮らす堺市域も例外ではありません。本展では、1707年の宝永地震・1854年の嘉永安政地震・1946年の昭和南海地震について、古文書等をもとに堺での地震や津波の被害の状況を紹介します。開催初日は東日本大震災発生から3年目にあたり、堺市危機管理室の協力を得て、防災啓発パネルをあわせて展示することにより、市民とともに防災の大切さを考えていく機会としました。

協力／堺市危機管理室

#### 【主な展示資料】

- ・神鳳寺記録(1707年 宝永地震) 個人蔵
  - ・金岡町光念寺記録(1854年 嘉永安政地震) 個人蔵
  - ・安西冬衛日記(1946年 昭和南海地震) 個人蔵
- (展示担当：矢内)

### 「古文書をよみとく 一文字とカタチから」

平成26年6月3日(火)～7月6日(日)

古文書は、歴史を知るうえで欠くことができない貴重な史料です。しかし、文字を読むてほどこを受けたり、歴史を専門的に学んだりしたことがある方を除き、多くの方々にとっては、読みにくいずし字で書かれた古文書の展示は、ともすれば面白くないと受け止められがちです。この展示では、戦国時代から江戸時代までに書かれたさまざまな手紙や願い書などをもとに、古文書史料をよむうえでの基本的な知識や、古文書の性格・形状などについて解説しました。

#### 【主な展示資料】

- ・織田信長書状 当館蔵
  - ・今井宗久書札留 個人蔵
  - ・百舌鳥赤畑村文書 当館蔵
- (展示担当：渋谷)

### 「与謝野晶子と小林天眠の長き交流」

平成26年7月8日(火)～8月3日(日)

小林天眠(1877-1956)は文学、実業の両面で活躍した人物です。天眠が立ち上げにたずさわった浪華青年文学会(後の関西青年文学会)の堺支部に与謝野晶子(1878-1942)は入会しており、その後、二人の交流は生涯にわたりました。天眠は柳原

白蓮や、堺出身の文学者・河井醉茗らとも交流があり、その交流からは多くの作品が生み出されました。この展示では、天眠によって今に伝えられる数々の作品を通し、晶子と天眠の交流、そして、堺出身の文学者らと天眠の交流を紹介しました。

#### 【主な展示資料】

- ・与謝野晶子筆「和歌ちらし屏風」 六曲一双
  - ・柳原白蓮筆「和歌ちらし屏風」 六曲一双
- ともに「天眠文庫」資料／京都府立総合資料館蔵  
(展示担当：文化課 岡崎)

### 「発見！100年前の堺の銀行―兒山銀行記録―」

平成26年8月5日(火)～9月15日(月・祝)

近代の産業の発展に欠かせない金融機関が銀行です。明治時代には、全国で数多くの銀行が誕生しました。堺においてもいくつかの銀行が設立されており、明治44年に現在の堺市中区陶器の資産家兒山家によって設立された合資会社兒山銀行もそのひとつです。現在の堺区甲斐町東3丁に本店を構えた兒山銀行は、現在の堺市中区福田や交野市星田に支店・出張所を展開するなど活動をしました。大正14(1925)年に山口銀行に買収され、その活動を終えますが、大正時代の堺の金融界の一角を担いました。この展示では、これまでわからなかった兒山銀行の歴史を新発見資料によって紹介し、堺の新しい歴史を明らかにしました。

#### 【主な展示資料】

- ・合資会社兒山銀行定款 1冊 当館蔵
  - ・特別当座預金通帳 1冊 当館蔵
  - ・兒山銀行運動会写真 1枚 東兒山家蔵
- (展示担当：矢内)

### 「クイズ！？むかしの道具」

平成27年1月20日(火)～3月8日(日)

当館が収集している、昔使われていた道具をクイズ形式で展示し、道具の変化やそれによってもたらされた生活の移り変わりを紹介しました。なお、開催期間中には、地階学習室等に体験コーナーを設置し、主に市内の小学校3年生の団体を対象に、足踏み脱穀機や石臼、むかしの遊びなどの体験学習を実施し、37校の参加がありました。

(展示担当：倉橋・増田)

# 資料

## 新収蔵資料

平成26年度に寄贈あるいは寄託を受けた資料は以下のとおりです。

### 寄贈

- ・守田宝丹書状（河口慧海宛） 1通
- ・『明星』第5巻4号・第10巻1号 各1冊
- ・『冬柏』第7号 1冊
- ・『日本古典全集』（懐風藻ほか） 44冊
- ・泉北西陶器村深阪 角谷本家文書 75件1括
- ・『地震・津波 末代噺の種 全』 1冊
- ・茶道具類 55点
- ・堺桜之町・北馬屋町 住吉屋七左衛門家文書 491点
- ・堺緞通（麻） 2点
- ・堺緞通（一畳敷） 2件3点
- ・堺緞通（辻林峯太郎作） 1点



「堺緞通（一畳敷）2件3点」のうち1点

### 寄託

- ・日根対山絵画資料 10件
- ・田能村直入絵画資料 5件
- ・林園苑絵画資料 5件
- ・趙陶斎絵画墨蹟資料 10件
- ・堺緞通（松代藩真田家伝来） 1点
- ・漆工芸資料 28件

- ・犬追物図屏風 6曲1双
- ・法道寺十六羅漢像（重要文化財） 16幅
- ・法道寺阿弥陀三尊像（堺市指定文化財） 1幅
- ・和泉国大鳥郡市村紋油屋・晒屋関係文書 33点
- ・藤本荘太郎博覧会賞状牌等屏風 1隻
- ・堺緞通「網利剣文・縁矢羽根文」等 13件16点
- ・西海筋風俗絵巻 1巻
- ・堺緞通（牡丹に亀甲文） 1点
- ・祥雲寺一凍紹滴墨蹟「沢庵」等 14件

## 保存修理

平成26年度は、以下の所蔵資料7件について保存修理を行いました。

1. 山水人物花鳥図扇面（愛石、岡熊岳等） 12面  
平成13年一括寄贈を受けた「泉州大鳥郡陶器北村児山家関係資料」に含まれていたもの。もとは屏風等に貼られていたようであるが、台紙・裏貼りとともに粗雑に切り取られており、破れやカビ痕も認められた。スポット展示「発見！100年前の堺の銀行－児山銀行記録－」における展示に際し、本紙の解体・クリーニング・欠損修理・裏打ち等を行い、保存用のアーカイバル・ホルダーと中性紙ケースを新調した。
2. 仙岳宗洞墨蹟 1幅  
解体修理を行った。天地・中廻しは似寄りの裂に取り換え、一文字・風帯は修理して再度用い、裏書は張り直した。保存用の太巻き芯付き中性紙ケースを新調した。
3. 岸谷勢蔵「米進駐軍金岡部隊招聘中作品集」1冊  
台紙から外れている作品を固定し直した。
4. 貫名菘翁墨跡「飲中八仙歌」 1幅  
掛緒を新しいものに取り換えた。
5. 貫名菘翁墨跡「天地無私」 対幅  
掛緒を新しいものに取り換えた。
6. 大塚山古墳出土三尾金具  
樹脂含浸、樹脂と腑による強化、防錆処理、一部復元を行った。

7. 仁徳天皇陵古墳前方部出土石棺図(レプリカ)  
本紙クリーニングおよび皺の修復。台紙の新調。

## 館外貸出

平成26年度に当館収蔵資料(所蔵資料・寄託資料)の貸出を許可した19件について、貸出先(会場)／展覧会名／資料名を記載しました。☆印は寄託資料。

1. 石川県立美術館／特別展「高山右近とその時代」／重要美術品「南蛮屏風」1双、堺市指定文化財「山上宗二記」1冊
2. 与謝野晶子文芸館／常設展「与謝野晶子 生涯と作品 第1期」／「与謝野晶子自筆歌幅(初夏の)」ほか計10件
3. フィラデルフィア美術館／特別展「Ink and gold: Art of the Kano」／狩野永岳筆「周茂叔教程顯兄弟図」1巻
4. 鳥根県立古代出雲歴史博物館／企画展「倭の五王と出雲の豪族」／「大塚山古墳出土三角板革綴衝角付冑」ほか計6件
5. 与謝野晶子文芸館／企画展「晶子さんからのおくりもの」／「与謝野晶子歌稿(ふるさとの若き女性へ)」ほか計10件
6. 高槻市立しろあと歴史館／特別展「戦国 大阪の城—動乱の時代と天下統一—」／「河州千早城之図」1件
7. 与謝野晶子文芸館／常設展「与謝野晶子 生涯と作品 第2期」／「与謝野晶子歌幅(月光)」ほか計10件
8. 堺市立文化館／企画展「ゴルゴ13の世界展」／「火縄銃」1挺
9. 室津海駅館／特別展「播磨に生きた官兵衛—乱世の中の室津—」／「皺革包胴丸具足」1件
10. 京都府京都文化博物館／特別展示「京を描く—洛中洛外図の時代—」／「洛中洛外図屏風」1双、「聚楽第行幸図屏風」1双
11. 大阪府立狭山池博物館／特別展「重源と東大寺—鎌倉時代の復興を支えた人びと—」／「行基菩薩画像」1幅
12. 茨木市立文化財資料館／テーマ展「茨木に眠る資料—免山篤コレクションを中心に—」／「大塚山古墳出土ミニチュア土製品(寝台)」1点☆
13. 奈良国立博物館／特別展「白鳳」／重要文化財「木造観音菩薩立像」1軀
14. 宮古市立図書館・宮古市北上山地民俗資料館／「宮古・さかい交流展」／「浜寺昭和町出土銅鐸(レプリカ)」ほか計3点
15. 大阪城天守閣／特別展「豊臣と徳川」／「慶長大火縄銃」1挺
16. 大和文華館／特別企画展「風俗画と物語絵」／岩佐派「源氏物語図屏風」1双☆、岩佐派「源氏物語図押絵貼屏風」1双☆
17. 高島屋史料館／企画展「与謝野晶子と百選会」／「歌幅(詩と女)」ほか計4件
18. 大分県立歴史博物館／特別展「キリスト教王国を夢見た大友宗麟」／「洋風女性図」ほか計4件、堺市指定文化財「日本図・世界図屏風」のうち「世界図」1隻☆
19. エルミタージュ美術館・プーシキン美術館／特別展「樂—茶碗の中の宇宙」／雲谷等播「琴棋書画図屏風」1双☆、海北友松「禅機図押絵貼屏風」1双☆

## 特別利用

特別利用は堺市博物館条例第4条に基づき、資料の熟覧、模写、模造、撮影(原板貸出を含む)等の申請に対して許可を行っています。平成26年度の利用申請は153件でした。

## 普及(平成26年4月～平成27年3月)

### 体験学習会

- ・子どもの日クイズ大会  
5月5日(土) 228名/定員50名
- ・お茶室たんけん①抹茶をいただきます  
6月7日(土) 23名/定員8組16名
- ・勾玉をつくろう①  
7月19日(土) 75名/定員30組60名
- ・ダンボールで仁徳天皇陵古墳をつくろう①  
7月26日(土) 50名/定員20組40名
- ・堺歴史ジグソーパズルをつくろう  
8月2日(土) 16名/定員15組30名
- ・ダンボールで仁徳天皇陵古墳をつくろう②  
8月10日(日) 台風接近のため中止/定員10組40名
- ・勾玉をつくろう②  
8月24日(土) 74名/定員30組60名
- ・古墳時代の服を着てみよう  
10月18日(土) 60名/定員50名
- ・百舌鳥古墳群探検ツアー  
10月25日(土) 12名/定員30名
- ・お茶室たんけん②抹茶をたてましょう  
11月8日(日) 35名/定員16組32名
- ・昔の道具・あそび体験会①  
1月24日(土) 59名/定員50名
- ・昔の道具・あそび体験会②  
2月8日(日) 139名/定員50名
- ・昔の道具・あそび体験会③  
3月8日(日) 59名/定員50名
- ・春休み博物館クイズ大会  
3月24日(火) 39名/定員50名

### 博物館コンサート2014

- ・RippleのおしゃべりJazzコンサート  
6月15日(日) 128名  
出演: Ripple(りぶる)  
ジャンル: フルート&ピアノ&ウクレレによるジャズアレンジ
- ・オペラのドラマティックヒロイン  
～あなたはどのタイプがお好き～  
9月13日(土) 78名  
出演: オペラティックトリオ  
ジャンル: 声楽(オペラ)とピアノによるアンサンブル&ソロ
- ・わくわくディキシシーランド  
10月4日(土) 200人

- 出演: TDL(とよなかディキシシーランド)  
ジャンル: ディキシシーランドジャズ
- ・珠玉のヴァイオリン名曲選  
～心癒される文化の日の午後～  
11月3日(月・祝) 300名  
出演: 北村奈美、中井由貴子(ピアノ伴奏)  
ジャンル: ヴァイオリン演奏
- ・吹けっ!邦楽の風!  
1月31日(土) 170名  
出演: 吹けっ!邦楽の風!  
ジャンル: 和楽器・ピアノ・アコーディオンのコラボ
- ・JoFunatoTrumpetConcert  
～トランペットとピアノで奏でるハーモニー～  
2月11日(水・祝) 220名  
出演: 船戸譲(トランペット)、船戸由香里(ピアノ)  
ジャンル: トランペットとピアノで奏でる日本の歌

### 2014ミュージアム・パス&スタンプラリー

夏休み期間に、企画展「貫名菘翁の優品」に関連した書道体験会、歴史学習相談会など、小・中学生が楽しめる催しを掲載した「ミュージアム・パス」を作成し、堺市在住・在学の小・中学生に配付しました。本パスを提示すると、堺の歴史や文化を学べる施設(当館・みはら歴史博物館・町家歴史館山口家住宅・町家歴史館清学院・泉北すえむら資料館)に保護者1名とともに何回でも無料入館でき、3施設のスタンプを集めると記念品、5施設のスタンプを集めると認定証がもらえるスタンプラリーも実施しました。

### 博物館実習

- 8月4日(月)～8日(金) (5日間)  
実習生: 7大学計10名  
カリキュラム:  
(第1日) オリエンテーション、展示場見学、スポット展示の撤収および展示、施設見学  
(第2日) 当館の事業と役割、博物館資料の管理と保存、考古資料の取り扱い、美術資料の取り扱い  
(第3日) 博物館でのボランティア活動、学校教育との連携と体験学習、茶室体験、工芸資料の取り扱い、百舌鳥古墳群シアター見学  
(第4日) 世界文化遺産と百舌鳥古墳群、展示企画の

立て方について、古文書資料の整理  
(第5日) 世界無形文化遺産と堺市、図書の整理、古  
文書資料の整理、博物館実習のまとめ

### 博物館学芸員インターンシップ実習

7月12日(火)、8月9日(火)・10日(水)・23日(火)、  
9月6日(火)・13日(火) (計6日間)

関西大学よりインターンシップ実習生 3 名を受  
け入れ、館蔵資料の整理、展示準備の補助などを  
実習しました。

### 「日本と世界が出会うまち・堺 2014」 プロジェクト

9月15日(月・祝) 13時～17時

当館と大阪大学歴史教育研究会の共催事業と  
して、堺の国際交流の歴史などにスポットをあて  
たプロジェクトを平成25年度に引き続き開催しま  
した。サンスクエア堺ホールを会場に、応募のあ  
った5つの中学校・高等学校7グループによる堺  
の国際交流の歴史などの研究発表会と、大阪大  
学大学院教授桃木至朗氏による「『市民のための  
世界史』を堺から発信する」と題した講演会を  
行いました。このプロジェクトは、日本や世界の  
歴史に対する理解を深めるとともに多文化共生の  
心を育み、アジアをはじめ世界各地との新た  
な架け橋となる人材の育成をめざして開催しま  
した。

### 新成人招待プログラム

平成6年4月2日から平成7年4月1日生まれの新成  
人の方を対象に、平成27年1月12日(火)から平成  
28年1月10日(日)まで、成人式で配られる「成人  
式プログラム」を提示すると、歴史・文化を体験  
できる6施設(当館、みはら歴史博物館、堺市立文  
化館、さかい利晶の杜、町家歴史館山口家住宅、  
町家歴史館清学院)を、同伴者1名とともに無料で  
観覧できる新成人招待プログラムを実施しました。

また、当館では月1回、本プログラムの来館者を  
対象に「館内ガイドツアー」も実施しました。

### 第32回古文書講習会

2月14日(土)・15日(日) 各40名

10時～12時、13時～15時

講師：10時からの部 当館学芸員 矢内一磨  
13時からの部  
堺女子短期大学名誉教授 浅井允晶氏

内容：市民を中心とした博物館観覧者を対象にし  
た、近世の古文書の読解・解釈の講座であ  
り、歴史に親しみ、また堺市にちなんだ古  
文書について理解を深めることを目的とし  
ています。第32回は、浅井允晶氏は江戸時  
代の堺の地誌に関する資料を教材に、矢内  
は当館蔵の堺魚商文書をテーマに、いずれ  
も近世堺に関連した古文書のコピーを用い  
て講義しました。

### 職場体験学習

平成26年7月から平成27年2月にかけて、堺市内  
の中学校2年生を受け入れました。

### 連続講座「百舌鳥古墳群研究の最前線」

- ・4月13日(日)「百舌鳥古墳群発掘調査成果」  
堺市文化財課 坂口浩司
- ・4月27日(日)「大仙公園の古墳  
—陪冢と中小独立墳について(古墳めぐり)」  
堺市世界文化遺産推進室 十河良和
- ・5月11日(日)「七観古墳と城ノ山古墳  
—帯金具からみた百舌鳥古墳群—」  
大阪府教育委員会 小浜成氏
- ・5月25日(日)「鉄製武具・武器の大量埋納  
—黒姫山古墳・大塚山古墳を中心に—」  
堺市世界文化遺産推進室 泉谷博幸
- ・6月8日(日)「古市古墳群における近年の発掘成果  
—峯ヶ塚古墳及び応神天皇陵古墳の周辺」  
羽曳野市教育委員会 吉澤則男氏
- ・6月22日(日)「仁徳天皇陵古墳関連資料の紹介と  
検討—出土品と古記録を対象として」  
当館学芸課長 白神典之

### 連続講座「まわりからみた百舌鳥古墳群」

- ・10月11日(土)「陶邑窯跡群と百舌鳥古墳群」  
大阪府教育委員会 宮崎泰史氏
- ・10月13日(月・祝)(台風接近のため中止)  
「大園遺跡と百舌鳥古墳群」  
大阪府教育委員会 三好玄氏
- ・11月1日(土)「土師遺跡と土師氏と百舌鳥古墳群」  
堺市文化財課 内本勝彦
- ・11月8日(土)「四ッ池遺跡・下田遺跡と百舌鳥古墳群」  
堺市文化財課 池峯龍彦
- ・12月14日(日)「黒姫山古墳と百舌鳥古墳群の石棺  
—王の棺・長持形石棺を考える—」  
堺市世界文化遺産推進室 十河良和

## 無形文化遺産の普及促進事業

堺市では、平成23年10月、ユネスコが賛助するアジア太平洋無形文化遺産研究センター（IRCI）が、独立行政法人国立文化財機構の一機関として堺市博物館内に開設されたことを受け、堺市では文化庁、IRCI等と連携し、無形文化遺産の理解促進のための事業を実施しています。

※以下の全ての事業は博物館内で実施しました。

### ◆無形文化遺産理解セミナー

#### ◎人形浄瑠璃文楽の魅力

～より深く理解し、楽しむために～

（平成26年6月28日）

飯島 満 東京文化財研究所無形文化遺産部長に、豊富な音源を用いて、音楽的側面から文楽の魅力について講演していただきました。

#### 【セミナー概要】

文楽の音楽（義太夫節）は、初めて聞くとどれも同じように聞こえるかもしれませんが、多くの場合、段切りの旋律は決まっております。一段の始まりについても旋律のパターンはある程度決まっています。ただし、太夫と三味線弾きは、同じ旋律線であっても、作品の内容に応じて異なった印象を観客に与えます。

義太夫節はジャズと同様に、名曲なし名演あるのみと思っている人がいるかもしれませんが、義太夫節にも名曲はありますし、名曲の名演もあります。義太夫節を聴いて、そうしたことが聴き分けられるようになるのは容易なことではありませんし、時間が必要です。演奏の良さ、曲の面白さが自分なりに判断できるようになるまで、文楽に興味を持ち続けてもらえたら嬉しく思います。

作品の内容や登場人物に対する解釈の違いが、太夫の語りや三味線にあらわれることもあります。その違いは、人形舞台にも影響を与えます。また、三味線が変わることによっても様子が変わります。太夫の語りや人形の動きに気を取られていると気付きにくいかもしれませんが、三味線弾きが場面の緊張感を盛り上げたり、その場の様々な情景を巧みに表現したりしています。このように、人形舞台を支えている音楽の魅力に注意して見ると、文楽をより一層楽しめると思います。

最後に、近年、文楽の技芸員をめざす人が少な

くなっています。文楽の魅力に気付いた私たち一人一人が伝道師になって、多くの人に文楽をはじめとした伝統芸能に足を運んでもらい、裾野を広げることが重要です。（参加人数 93人）



#### ◎世界のなかでの和食

（平成26年9月27日）

和食がユネスコ無形文化遺産代表一覧表に記載されて一年を迎え、日本における食文化研究の第一人者である石毛直道 国立民族学博物館名誉教授に、世界のなかでの和食ブームとその背景について講演していただきました。

また、日本の食文化の発展を支えてきた堺の刃物、昆布、和菓子などの伝統産業を紹介するパネル展示も同時開催しました。

#### 【セミナー概要】

現在の世界では大変な勢いで和食がブームになっています。海外の和食レストランは急増し、和食が一番好きな外国料理の中で1位になっており、和食は世界で大変評価されています。

しかし、1960年代に調査で世界各地を訪れたときは、和食レストランが少なく、顧客がほぼ日本人に限られており、肉や油脂の使用が少ない和食が世界性を獲得することはないだろうと考えていました。

ところが、1970年代末にアメリカでスシがブームになったので、その理由を明らかにするためにロサンゼルスのレストランを調査しました。

まず、和食は健康によい（ヘルシー）、軽いというイメージを持たれていることがアンケート調査で分かりました。1970年代になってから、アメリカ人の食生活を改善するために、肉類、脂肪や砂糖の摂取量を減らし、炭水化物を多く摂取する

ように推奨されたことで、野菜と魚を主とする日本料理、中でも全粒穀物である米の飯に魚を合わせたスシが、自然にちかい状態で食べられるので、特に注目されるようになりました。

そして、アメリカ人にとって、スシを通じて知らない新しいおいしさ（生魚）を知ることができ、作る人と食べる人がコミュニケーションできる日本料理店のカウンター（スシバー）という形も新鮮でした。

また、製品の品質がいい、信用できる、安全だという日本に対するいいイメージがアメリカの和食のブームを支えていたと言え、それは現在も同じです。

その後、和食はどう変わったでしょうか。2010年にニューヨークでの短期間の調査を通して、和食レストラン数が増えていること、アメリカ人がデリカで和食をテイクアウトするほど和食が普及していること、レストランには大衆的なお店があれば、高級店もあることなど、ロス調査の時とずいぶん変わったと分かりました。

20世紀の終りごろにアメリカから始まった和食のブームはヨーロッパやアジアなど世界へ広がっています。これは和食が健康にいい食事だという理由以外に、食べ物の持ち味を重視する和食の哲学、「だし」による「うまみ」の味覚、美しい盛り付け等、世界の他の料理では体験できないような要素によるところも大きいといえます。

(参加人数 91人)



### ◎ユネスコ無形文化遺産条約とIRCIの歩み

(平成27年2月21日)

荒田明夫 IRCI所長に、ユネスコ無形文化遺産保護条約の概要、この条約への日本の取組みなどを説明していただきました。

IRCIでは、この条約に沿った調査研究活動の調整などを通じて、無形文化遺産の保護を強化する

ため、現在、ベトナム、スリランカなどメコン川流域の5か国で調査活動を実施していることや、堺市と連携して国際会議を開催するなどの今後の計画を紹介していただきました。

### ◎南インド社会と音楽

(平成27年2月21日)

寺田吉孝 国立民族学博物館教授に、儀礼音楽と古典音楽を軸に南インド社会について講演していただきました。豊富な映像や音声資料により、参加者は南インドの音楽を実際に体感することができました。

#### 【セミナー概要】

インドの古典音楽には、北インドのヒンドウスターニーと南インドのカルナータカ音楽の二つの系統があります。弦楽器の演奏が印象的な北インドの音楽と対照的に、南インドは声楽が中心です。南インドはタミルナードゥ州、アーンドラ・プラデーシュ州、カルナータカ州、ケーララ州の四つの州から構成され、人口の大多数はヒンドゥー教徒です。タミルナードゥ州が南インドの古典音楽舞踊の中心地と言われています。

セミナーでは、古典音楽の源流の一つである「ペリヤ・メーラム」音楽と南インドの古典音楽カルナータカ音楽をとりあげました。

ペリヤ・メーラムは、「吉兆の音楽」と言われます。使用楽器はナーガスワラム（メロディー）、タヴィルとターラム（リズム伴奏）、シュルティボックス（持続音）の四つです。寺院での礼拝時や神様が巡回する時、大祭の時に演奏されます。結婚式のような人生儀礼にも欠かせません。ほかにコンサート、ラジオやテレビへの出演もあります。結婚式等で得る謝礼が演奏家の重要な収入源になります。ペリヤ・メーラムは伝統的に口伝で継承されてきましたが、1950年代からは学校教育も始まりました。少ないながら、女性演奏家もいますが、配偶者を亡くして寡婦になると、結婚式のようなめでたい場に出られないので、演奏する場がなくなる状況に直面します。

カルナータカ音楽は神を讃える歌を中心とする音楽で、宗教的な要素が強いです。ヴィーナ、タンブラー、ヴァイオリン（構え方が違う）、ムリダンガム（両面太鼓）、ガタム（素焼きの壺）やカンジューラ（タンバリン）などの楽器を使い、コンサートホール、寺院のお祭り、結婚式の余興

として演奏されますが、家庭に友人たちを招くハウスコンサートもあります。カルナータカ音楽の中心は、南インド各地にあった宮廷から経済的に活気のあるチェンナイに移りました。チェンナイでは毎年12月に音楽協会が主催する音楽祭が集中して行われています。

ペリヤ・メーラム音楽とカルナータカ音楽は歴史的、音楽的につながっていますが、演奏者やパトロンが帰属するカーストは異なります。カルナータカ音楽の演奏者とパトロンはブラーマンが圧倒的に主流で、ペリヤ・メーラム音楽のほう是非ブラーマンの職能カーストが担当してきました。カルナータカ音楽が盛んな地域はタミル語が生活言語であるにも関わらず、タミル語の楽曲がほとんどないという言語の分断もカーストの対立に読み替えることができます。

1991年のインド経済の自由化以来、北米、ヨーロッパなどへの移民が増えました。経済力のある南アジア系移民は、出身地に対する意識の高まり、自文化に対する憧憬、そして二世に対する教育から、古典音楽に強い興味を示しています。演奏家のインドと海外との行き来が活発になり、文化の一方向的な輸出ではなく、「文化の環流」という現象が起こり、在外インド人の音楽活動はインド国内にも影響を与えています。

(参加人数 75人)

## ◆コーナー展示

### 「南インドの音楽と楽器」

(平成27年2月17日～3月22日)

カルナータカ音楽とペリヤ・メーラム音楽で使用  
する楽器(国立民族学博物館所蔵資料)などを展示  
し、その演奏方法等をパネルや映像で紹介しました。



## ◆ワークショップ

### 「南インド古典舞踊ーバラタナティヤム」

(平成27年3月7日)

インド舞踊家の奥川康子先生によるインド舞踊の種類、歴史や理論に関するレクチャーを聞いた後、先生の解説と娘のふゆさんのお手本をもとに、参加者が実際に足・手・目の動き、手のジェスチャー、顔の感情表現(喜怒哀楽)などインド古典舞踊の基礎を習いました。最後は、全員で習った基礎を組み合わせて一つの踊りに挑戦しました。また、奥川先生による実演も鑑賞しました。

(参加人数 36人)



※無形文化遺産理解セミナー「南インド社会と音楽」、コーナー展示「南インドの音楽と楽器」、ワークショップ「南インド古典舞踊ーバラタナティヤム」は無形文化遺産理解事業「南インドの社会と音楽・舞踊」として行われました。



職員（平成27年4月1日現在）

職名		氏名	学芸分野	
名誉館長（非常勤）		中西 進		
館長（文化観光局長兼務）		笠谷 実		
副館長（部長級）		溝口 勝美		
副理事		赤澤 明		
学芸課	課長	白神 典之	考古	
	参事役（非常勤）	河野 俊英		
	課長補佐	増田 達彦	考古	
	主幹	新川 晴美		
	管理係	主幹兼係長	由肥 功勝	
		主査	廣崎 晶子	
	推進係	主幹兼係長	廣瀬 香代子	
		副主査	倉橋 昌之	歴史
		研究員	橘 泉	歴史
		非常勤職員	吉田 豊	歴史・民俗
		非常勤職員	遠藤 浩也	
		非常勤職員	徐 素娟	
	学芸係	主幹兼係長	續 伸一郎	考古
		主査	柿沼 菜穂	考古
		主査	矢内 一磨	歴史
		副主査	宇野千代子	美術史
		研究員	堀川 亜由美	美術史
	学芸係（利晶の杜）	副主査	渋谷 一成	歴史
		非常勤職員	安達 智美	文学
		非常勤職員	伊住 禮次朗	美術史
非常勤職員		小松原 瑞穂	歴史	
	非常勤職員	森下 明穂	文学	

博物館協議会委員（平成27年4月1日現在）

氏名	現職名
浅井 允晶	堺女子短期大学名誉教授
足立 久美子	(公財)堺都市政策研究所理事
今西 幸蔵	神戸学院大学教授
川口 祐司	堺市立泉北高倉小学校長
菅原 真弓	和歌山大学准教授
谷 晃	野村美術館館長
中村 浩	大阪大谷大学名誉教授
船木 佳代子	元和泉市久保惣記念美術館学芸係長
森 範子	大阪府私立中学校高等学校保護者会連合会相談役
山中 浩之	大阪府立大学名誉教授

平成26年度入館者数（ ）内は開館日数

内訳	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	種別合計	1日平均(315)	
		(26)	(29)	(25)	(27)	(27)	(27)	(28)	(28)	(24)	(24)	(26)				
有料	一般	1,373	2,405	1,380	1,122	1,677	1,262	1,417	1,414	603	849	948	1,161	15,611	50	
	個人	高大生	69	122	87	146	594	121	108	77	54	66	117	127	1,688	6
		小中生	174	359	74	177	535	88	66	93	35	84	44	144	1,873	6
		小計	1,616	2,886	1,541	1,445	2,806	1,471	1,591	1,584	692	999	1,109	1,432	19,172	61
	団体	一般	160	140	191	54	56	163	235	351	95	169	203	198	2,015	7
		高大生	27	4	25	29	12	2	114	2	1	96	4	8	324	2
		小中生	261	273	12	82	25	0	700	94	2	4	10	28	1,491	5
		小計	448	417	228	165	93	165	1,049	447	98	269	217	234	3,830	13
	合計	2,064	3,303	1,769	1,610	2,899	1,636	2,640	2,031	790	1,268	1,326	1,666	23,002	74	
	無料	小中生	572	897	1,129	550	1,277	436	691	1,203	860	1,426	1,868	463	11,372	37
身障者		402	356	262	176	163	184	277	251	213	123	166	188	2,761	9	
招待/優待		49	109	165	30	27	139	949	471	73	78	31	58	2,179	7	
視察		163	67	68	416	95	42	200	117	160	89	24	42	1,483	5	
65才以上		2,377	2,832	2,164	1,143	640	2,296	2,882	3,212	793	924	1,050	1,314	21,627	69	
留学生		3	13	2	35	8	7	7	50	6	17	7	6	161	1	
その他		1,247	1,550	1,154	994	1,459	1,073	3,337	3,368	500	955	1,320	1,042	17,999	58	
合計	4,813	5,824	4,944	3,344	3,669	4,177	8,343	8,672	2,605	3,612	4,466	3,113	57,582	183		
観覧者合計	6,877	9,127	6,713	4,954	6,568	5,813	10,983	10,703	3,395	4,880	5,792	4,779	80,584	256		
無料ゾーン	5,896	8,068	5,049	3,680	4,544	4,246	8,166	8,659	2,883	2,659	2,881	4,579	61,310	195		
総計	12,773	17,195	11,762	8,634	11,112	10,059	19,149	19,362	6,278	7,539	8,673	9,358	141,894	451		

・1日平均は小数点以下切り上げ。

## 利用案内

	堺市博物館	さかい利晶の杜
■所在地	〒590-0802 大阪府堺市堺区百舌鳥夕雲町2丁 大仙公園内	〒590-0958 大阪府堺市堺区宿院町西2丁1-1
■開館時間	午前9時30分～午後5時15分 ただし、入館は午後4時30分まで	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光案内展示室</li> <li>・千利休茶の湯館</li> <li>・与謝野晶子記念館</li> <li>・茶の湯体験施設</li> </ul> } 午前9時～午後6時 (最終入館 午後5時30分) 午前10時～午後5時 (最終入席 午後4時45分)
■観覧料	一般200円 (160円) 高校生・大学生100円 (70円) 小学生・中学生50円 (20円) ※( )内は、団体20人以上 ※65歳以上の方、障害のある方は無料(要証明書) ※堺市在住在学の小学生は無料 ※特別展期間中は別料金になります	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光案内展示室 無料</li> <li>・千利休茶の湯館・与謝野晶子記念館 大人(大学生含む) 300円 (240円) 高校生200円 (160円) 小中学生100円 (80円) ( )内は、団体10人以上</li> </ul>
■休館日	月曜日(祝日の場合は開館)、年末年始	第3火曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始 ※観光案内展示室は年末年始のみ
■交通	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JR阪和線「百舌鳥駅」より徒歩で約6分</li> <li>・南海バス「堺市博物館前」より徒歩で約4分</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・阪堺電車「宿院駅」より徒歩で1分</li> <li>・南海本線「堺駅」より徒歩で約10分、バスで約3～5分</li> <li>・南海高野線「堺東駅」よりバスで約6分</li> <li>・JR阪和線／南海高野線「三国ヶ丘駅」よりバスで約10分</li> </ul> ※バスの場合、「宿院バス停」下車

### 堺市茶室

堺市博物館の正面には、国の登録有形文化財の茶室「伸庵」「黄梅庵」があります。立礼席で気軽に抹茶をお楽しみいただけます。(1服300円)

庭園(露地)には、重要文化財の九重石塔(千早赤阪村・浄土寺伝来)が移築されています。庭園観覧は無料です。

